

西表島で採集されたテッポウウオ *Toxotes jaculator*

瀬能 宏・吉野哲夫・矢野維幾

A Record of the Archerfish (*Toxotes jaculator*) from Iriomote Island, the Ryukyu Islands

Hiroshi Senou, Tetsuo Yoshino
and Korechika Yano

(Received November 4, 1986)

A specimen of *Toxotes jaculator* (Pallas, 1767) (Pisces: Toxotidae) was collected from the mouth of Urauchi River ($24^{\circ}23'55''N$, $123^{\circ}46'48''E$), Iriomote Island, Ryukyu Islands, Japan. This species was recorded for the first time from the Japanese Archipelago. Its occurrence in Japan is the northernmost record of this species.

(HS: Ocean Research Institute, University of Tokyo, Minamidai 1-15-1, Nakano, Tokyo 164, Japan; TY: Department of Marine Sciences, the University of the Ryukyus, Nishihara, Okinawa 903-01, Japan; KY: Uehara 537, Taketomi-cho, Yaeyama, Okinawa 907-15, Japan)

日本におけるテッポウウオの記録は 1980 年 7 月 15 日に、西表島仲間川河口に掛かる仲間橋の橋桁付近を遊泳する全長約 25 cm の成魚 2 個体が観察されたのみであった (瀬能・鈴木, 1980)。その時、瀬能は橋上より写真を撮影するとともに昆虫を餌にして釣りを試みたところ、1 個体がすぐに餌を口にした。しかし水面上約 10 cm の所で釣り落してしまい標本は得られなかった。写真からこの 2 個体はインド・西太平洋域に広く知られ、フィリピンまで分布するテッポウウオ *T. jaculator* と推定された。その後、テッポウウオは一度も確認・採集されることはなかったが、1986 年 1 月 11 日に西表島の浦内川河口で、衰弱した 1 個体が同島上原在住の平良章健氏により日本で初めて捕獲された。この個体は Allen (1978) に基づきテッポウウオ *T. jaculator* と同定したので報告する。

計数・計測方法は主に Allen (1978) に従った。垂直鱗の条数および脊椎骨数は軟 X 線写真より求めた。

なおこの標本は琉球大学理学部海洋学科 (URM) に保管されている。

テッポウウオ *Toxotes jaculator* (Pallas, 1767) (Fig. 1)

材料 URM-P 15487, 1 個体, 体長 100.6 mm, 1986 年 1 月 11 日, 西表島浦内川河口右岸舟着場付近。

記載 背鰭: 4 棘 12 軟条, 臀鰭: 3 棘 16 軟条, 胸鰭軟条数 (最上部の痕跡的鱗条を含む): 12 (左)/11 (右), 尾鰭分枝軟条数: 8+7, 側線鱗数: 28 (左)/31 (右), 側線下方の横列鱗数 (臀鰭起部より斜上後方): 9 (左)/9 (右), 下枝鰓耙数 (右側第 1 鰓弓): 6, 脊椎骨数 (腹椎 + 尾椎): 10+14=24.

全長: 127.0% (体長に対する百分率, 以下同様), 頭長: 36.2, 眼径: 10.4, 吻長: 10.9, 両眼間隔: 11.5, 体高: 43.3, 尾柄長: 12.4, 尾柄高: 12.4, 胸鰭長: 30.9, 腹鰭長: 18.1, 上顎長: 18.1.

生鮮時の体色: 背部は緑味を帯びた暗色; 体側の地色は銀色; 体側上半部に 5 個の黒色斑があり, 第 1 番めは眼の後縁および主鰓蓋骨後縁間のほぼ中央部, 第 2 番めは主鰓蓋骨後縁直後, 第 3 番めは臀鰭起部直上, 第 4 番めは背鰭軟条部中央直下, 第 5 番めは尾柄後方上部にそれぞれ位置する。第 5 番めの黒斑は左右のものが背部で連続する。それぞれの黒斑間上方は黄味を帯びる; 背鰭軟条前部は暗色で, その下部は第 4 番めの体側黒斑に連続する。また後半上部には 1 黒色斑がある。他の部分は黄色; 尾鰭はほぼ一様に黄色; 臀鰭上半部は黒色, 下半部は黄色; 胸鰭は淡色で基底部上端は黒い; 腹鰭は淡色であるが前縁部はわずかに黄味を帯び, 黒色素胞が散在する。

論議 Allen (1978) に従えばテッポウウオ *T. jaculator* は背鰭棘が 4 本あることで, 同属の他種すべてから容易に区別できるが, その他の点では *T. chatareus* (Hamilton, 1822) や *T. oligolepis* Bleeker, 1875 から明確に区別できる形態的形質はない。わずかに体の斑紋や臀鰭の色彩において異なるだけである。今回得られた個体は外見的には背鰭棘を欠く異常個体であったが, 軟 X 線写真により検討した結果, 皮下に痕跡的に残存する 4 棘を確認できた。さらに本個体の体の斑紋や臀鰭の色彩は Allen によって図示された *T. jaculator* によく一致する。以上のことから本個体を *T. jaculator* と同定した。

和名テッポウウオは特定の種の標本に基づき提唱されたものではない。一般的には鑑賞魚として日本へ輸入される複数の種を一括してテッポウウオと呼んでいる。しかし文献上は *T. jaculator* に対して用いられることが多く (例えば松原, 1955), ここでは日本産として記録され



Fig. 1. *Toxotes jaculator*, URM-P 15487, 100.6 mm in standard length, collected from Iriomote Island, Japan.

た *T. jaculator* に対して本和名の使用を提唱する。

本種が西表島周辺で再生産を行っているかは現時点では不明である。しかし本種の採集された西表島を含む八重山諸島の環境は、本種が多数生息するフィリピンやパラオ諸島のそれと比較して遜色がなく、汽水性の種であるテッポウウオが幼期の分散の結果同地で充分成長するだけの環境条件を満たしているものと考えられる。

謝　　辞

本標本を採集し、寄贈された西表島上原の平良章健氏に対し感謝の意を表する。

引　用　文　献

- Allen, G. R. 1978. A review of the archerfishes (family Toxotidae). Rec. West. Austr. Mus., 6(4): 355-378.
松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. II. 石崎書店, 東京, pp. i-v + 791-1605.
瀬能 宏・鈴木寿之. 1980. 八重山列島の珍魚二題. 淡水魚, (6): 128.

(瀬能: 164 東京都中野区南台 1-15-1 東京大学海洋研究所; 吉野: 903-01 沖縄県西原町千原 琉球大学理学部海洋学科; 矢野: 907-15 沖縄県八重山郡竹富町上原 537)